

	シリーズ名	超音波技術を用いた抗ウイルス治療後肝発がん予測法の開発
	所属・役職・氏名	肝胆膵病態内科学・講師・打田 佐和子 (UCHIDA, Sawako)

<要旨>

C型肝炎に対する抗ウイルス治療によってウイルスの排除に成功した症例では、肝硬変進展や肝発癌が抑制される。その一方で、ウイルスが排除された例においても経過観察中に肝癌を発症することが報告されている。しかしながら、その原因およびどのような症例で発癌が起こりやすいのかなどについてはわかっておらず、現時点では治療後も全症例を長期に経過観察する必要がある。本研究では、超音波を用いて、肝発癌に結びつく背景肝組織の変化を明らかにし、それら変化を非侵襲的に、定量的かつリアルタイムに診断・測定するツールを開発することを目的とする。

<研究シリーズ説明>

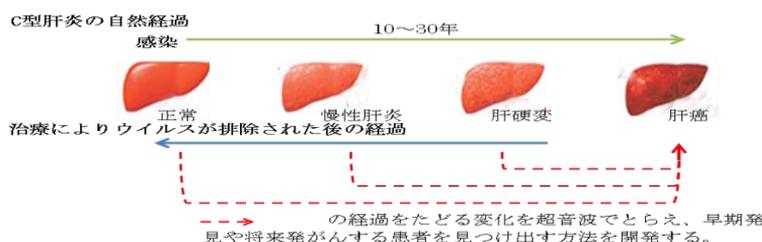
以下に示すような非侵襲的な超音波を用いて、肝臓の形態と機能を評価し、肝発癌を予測する変化を定量的かつリアルタイムに診断するツールを開発する。

1.肝臓の形態評価:Bモードで肝臓、脾臓、門脈など腹腔内臓器を評価し、形態診断を行う。

2.肝臓の機能評価:

1)超音波エラストグラフィにより、肝臓の組織学的変化を評価する。

2)超音波による肝血管構築評価により、肝臓の組織学的変化を評価する。また、肝血管血流を定量的に評価する方法を開発する。



<アピールポイント>

患者さんに対して侵襲の少ない超音波を用いて、発癌の予測や早期発見に利用できる定量的な検査法を開発することを目標としている。

<利用・用途・応用分野>

慢性肝疾患における肝発癌のメカニズムが解明できれば、今後の肝癌治療および予防法の開発に繋がることが期待される。また、超音波の診断能を評価・向上させることができれば、患者さんは侵襲の大きい検査を受けなくても済むようになることが期待される。加えて、他臓器にも応用できる診断法が確立できれば、将来的には肝癌だけでなく、他臓器の癌治療および予防にも繋がることが期待できる。

<知的財産権・論文・学会発表など>

Kobayashi S, et al. Development of hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis C who had a sustained virological response to interferon therapy: a multicenter, retrospective cohort study of 1124 patients. Liver International 2007;27:186-91.

<関連するURL>

<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/liver/>

<他分野に求めるニーズ>

なし

キーワード	超音波検査、肝臓、発がん予測
-------	----------------